

# 「コミュニティー維持大切」

## 沼津・重須 高台移転で勉強会

津波対策として集落高台移転を検討している沼津市の内浦重須自治会と同市は5日

夜、地元の公民館で移転を進める宮城県気仙沼市の被災者が参加し、地域のコミュニティーを守る大切さを強調した。



集落の高台移転について小野寺さん(奥)から話を聞く住民＝沼津市内浦重須

4回目の勉強会で、テーマは「30年後の重須地区の姿」。被災者を招いたのは初めてで、44世帯、約50人が参加した。90戸の高台移転を目指す気仙沼市小泉地区の集団移転協議会事務局員小野寺正則さん(48)は「過疎が進むことを踏まえながら、地域のコミュニティーを継続させる方を最優先に考えてほしい」と

アドバイスした。勉強会の講師で、同協議会のアドバイザーを務める北海道大学院の森傑教授(都市計画)は「高台移転をしても問題はすべて解決しない」と指摘。「移転することで、コミュニティー維持に逆効果となることも含んで検討してほしい」と述べた。

森教授とともに小泉地区の移転事業を支援する札幌市の建築士も、移転跡地の活用策まで考える必要性を説いた。参加した住民はグループワークで、高台移転後に地震が発生した場合、どんなメリットがあるかを具体的に話し合った。

## 高台移転を目指す沼津で住民勉強会

津波被害を予防するため、高台移転を目指す沼津市内浦重須地区の勉強会が



内浦重須地区の勉強会を見学した宮城県気仙沼市小泉地区の小野寺さん(右端)

5日夜、地元公民館で開かれた。この日は東日本震災で被災後、高台移転を決めた宮城県気仙沼市小泉地区の住民組織「小泉地区集団移転協議会」の事務局員、小野寺正則さん(48)が見学に訪れ、「街づくりが一番大事なことは、コミュニティーの維持。それを忘れないでほしい」と話した。小泉地区は、全体の6割にあたる308世帯が全半壊した。死者・行方不明者も43人に上り、約120世帯規模での集団移転を決めている。

勉強会はこの日で4回目。住民約50人が出席し、「30年後の重須地区の姿」をテーマに、高台に移った場合と現在の生活を比較し、良くなること、不便になることなどを話し合った。